～紙芝居とアニメーションで伝える～
東日本大震災と福島第一原発事故が残した轍（わだち）

【日時】令和９年１月９日(土)・１０日(日)
各日１１時～１６時

当事業は、パルシステム連合会「東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金」による助成事業です。

【場所】ニュースパーク（日本新聞博物館）２Fイベントルーム内

【アクセス】



福島県浪江町の「浪江まち物語つたえ隊」の中心メンバーである岡洋子さんを横浜に招聘し、紙芝居による語り部講話や、震災時及び震災後の実話を基にした８つの物語をアニメーションとして制作した作品の内４作品を上映し、震災当時の状況やその後に残した爪痕を、あらためて皆様に知っていただく事を目的に開催いたします。



【浪江まち物語つたえ隊】
紙芝居による語り部活動を通じ、震災の記憶の継承および地域の心のつながりを守るため、福島県内外で数多くの作品上演会を行っている。もとは避難生活中の浪江町民の心と孤独を癒すために始められた活動。

【プログラム】

参加費は、ニュースパークの入館料のみ必要となります。

１月９日（土）
11～12時　前半・紙芝居「奇跡の請戸小物語」＋後半・紙芝居「無念」
12～13時　前半・DVD「見えない雲の下で」後半・DVD「私は帰らない」
13～14時　前半・紙芝居「おふくろ」＋後半・紙芝居「さえずりが消え…」
14～15時　DVD「無念」１本
15～16時　紙芝居「私は帰らない」１本

※岡さんのご登壇は紙芝居時になり、DVDはアニメーションを流します。

１月１０日（日）
11～12時　紙芝居「私は帰らない」１本
12～13時　冒頭・岡さん講話(約15分)＋後半・DVD「浪江ちち牛物語」
13～14時　前半・紙芝居「奇跡の請戸小物語」＋後半・紙芝居「無念」
14～15時　前半・DVD「私は帰らない」＋後半・紙芝居「おふくろ」
15～16時　DVD「無念」１本

主催：一般社団法人　明日への架け橋　問合せ：info@asuenokakehashi.com

紙芝居 & DVD 作品のラインナップ

※岡さんの語り部登壇は紙芝居の上演時になります。
ＤＶＤ上映時はご出演されませんので、ご注意ください。

作品名	タイトル画	あらすじ
紙芝居・DVD 浪江町消防団物語 無念		地震発生時、浪江町の請戸地区には助けを求める命がありました。余震・津波の恐れがある中、消防団は翌朝、日の出とともに救助に来ることを約束し、一旦は撤収します。しかし、そこに原発事故が発生。消防団自身も避難を余儀なくされました。助けられた命があることを知りながらの避難。消防団の無念はあれから何年経っても消えることはありません。
DVD 浪江ちち牛物語		原発事故によって、被曝した牛たちに下った殺処分の命令。安楽死させられた牛の頭数は福島県下で３千頭を超えました。人に運命を握られる牛たち。機械的に処分されたと言う人も多くいますが、そこには精神を病むほど悩み苦しむ酪農家がおりました。牛の目線で酪農家の悲しみを伝える物語です。
紙芝居・DVD なみえ母娘避難物語 私は帰らない		語り部であられる岡さんのご家族がご経験されたお話です。介護施設に勤務し始めたばかりの娘さんが懸命にお年寄りの方々の世話をしながら救助を待っておりました。しかし慣れぬ仕事、それも重労働に耐えかねて、ついには倒れてしまいます。命の危険すら迫る中で、施設長が母である岡さんに、娘さんを迎えに来るように電話をします。その時、「私は帰らない」と言い張る娘を想い、「私に代わり娘を抱きしめて欲しい」と施設長にお願いします。
DVD 見えない雲の下で		３月１１日以降に始まった避難生活。震災前、浪江町で民話の語り部の活動をしていた、故・佐々木ヤス子さんは桑折町の避難所におりました。避難中の生活を綴った随筆「恐ろしい放射能の下で」を自費出版し、避難所で出会う方々に配布しておりました。その随筆が基になった紙芝居のアニメーションです。
紙芝居 奇跡の請戸小学校 避難物語		海から約 300ｍに位置する請戸小学校には、校舎２階の高さまで迫る大津波が押し寄せましたが、教職員と児童全員が学校から約 1.6 キロメートル離れた大平山に無事避難することができました。日頃から避難行動がマニュアルに沿って徹底されていたことで、奇跡の避難を果たした学校として知られています。
紙芝居 おふくろ		震災原発事故により避難し、バラバラになってしまった家族。それでもお互いに思いやる心。故郷に帰りたい、帰れない、いろいろな葛藤がある中、浪江町を思う気持ちは変わらない。途中「ふるさと」の歌を歌います。
紙芝居 さえずりが消えた 街の物語		避難した浪江町民を迎え入れてくれた地域の、伊達郡桑折町のお話です。鳥の目線で、ポエム調でお話をします。原発事故によって、町の生き物の姿を見なくなり、鳴き声も消えてしまいます。仮設住宅での交流もあり、果物が有名ですが、原発事故により全部廃棄、除染で枝を切らなければなりませんでした。

後援　朝日新聞横浜総局　読売新聞横浜支局　中区社会福祉協議会　中区役所